

ジオコンサベーションのための視聴覚教材 —本部半島カルスト地域の事例—

琉球列島ジオサイト研究会
尾方隆幸

琉球列島ジオサイト研究会は、本部半島カルスト地域にジオコンサベーションの考え方を普及する目的でさまざまな教育活動を進めている。本プロジェクトでは、その教育活動の一環として、地球科学的遺産の保護・保全の意識を高めてもらうための視聴覚教材『美ら島のジオをまもろう』を製作した。教材の対象は高校生以上（社会人含む）とし、琉球大学教育学部自然地理学研究室の教員と学生が出演するドラマ仕立ての構成とした。高等学校をはじめとする学校教育での活用も考慮し時間は27分とした。

教育内容として重視したことは「自然環境のシームレスな理解」である。本部半島カルスト地域は、さまざまな自然保護規制が設けられているにも関わらず、適切な保全がなされていない。その背景には、住民意識の低さや、関係機関の理解不足などがある。とりわけ、地圏・水圏の自然環境と人間活動との相互作用の理解がきわめて不十分であり、それが無意味な政策に反映されている。この状況を改善するためには、自然環境をシステムとして、かつシームレスにとらえる視点の普及が第一である。

本編のシナリオは、自然地理学研究室の学生と教員の会話形式で進む。学生が疑問を持ち、教員が視点を示唆しながら疑問を解決していくストーリーである。教材に登場するジオサイト

は「1) 今帰仁城跡」「2) 本部カルスト」「3) 塩川湧水」の3つである。それぞれのテーマは、1) 地球史の中で人間活動を考えること、2) 円錐カルスト、ドリーネ、鍾乳洞などから地球の営みを考えること、3) 水循環によって繋がる地球の営みを考えることである。ジオサイトの映像（図1）だけではなく、カルスト地形に関する講義室での解説や、実験室における風化の実演、野外での水質分析（図2）もストーリーの中に組み入れた。

教材の作成にあたり重視したことは、専門家が自然保護を訴えるのではなく、地球の営みを語るストーリーの中でジオコンサベーションの意識を高めてもらう視点である。導入では、世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」に指定されている今帰仁城跡でのツアーに地球科学的内容が不足していることを問題提起した。まとめでは、「地球の営みをのぞく窓」としてジオサイトにどのような価値があるか、ジオサイトを保全することにはどのような意味があるか、視聴者に対して問いを投げかけた。学術性を損ねずにエンターテインメント性を取り入れることによって、地球科学的遺産の価値を本質から考えることができ、ジオコンサベーションに対する意識を高める効果が生まれると考えられる。



図1 今歸仁城跡での撮影風景. 石灰岩とカルスト地形を活かして築城されている. 世界文化遺産「琉球王国のグスク及び関連遺産群」



図3 塩川湧水での撮影風景. 石灰岩の岩盤から海水を含んだ地下水が流出する. 国指定天然記念物

Audio-visual educational material for geoconservation of the Motobu Peninsula, northern part of Okinawa Island, Japan

OGATA Takayuki